

特別講演

「無症候性不整脈 診療のポイント」

国立循環器病研究センター副院長

草野 研吾 先生

無症候性不整脈は、現場でしばしばみかける不整脈である。今回は、心室期外収縮(PVC)と心房細動(AF)に関して、重症度の評価、治療方針の決定に対して(私信を含め)概説する。特にアブレーション治療が一般化し、技術進化によって根治可能な不整脈の範囲がひろがっており、適切な症例を選択することは患者にとっても大変重要になってきている。

PVCは、ライフスタイルの見直しが重要であるが、年齢、基礎心疾患の有無、運動誘発性、頻度、連結期、PVCの形でアブレーションの有無を決定している。

AFは、無症候性に広がりを見せており分野であるが、持続性AFの場合は、罹患期間、年齢、CHADS2スコア、左房径、服薬アドヒアランス、患者希望を総合的に判断することが重要である。アブレーションのメリット・デメリットを十分に説明することも重要である。

これらの不整脈へのアプローチについて概説する予定である。